

4. 省エネ・省資源活動の展開

社用車におけるCO₂排出抑制やコピー用紙などの省エネ・省資源活動についても取組みを推進しています。

低燃費車の導入やエコドライブによるCO₂排出抑制

中長期的な地球温暖化対策の観点から、2020年度までに1,000台程度の電気自動車(プラグインハイブリッド車を含む)の導入を目指しています。

2015年度は、厳しい経営状況を踏まえ、新規導入を見送りましたが、一般車両約2,200台のうち、これまでに累計で167台*を導入しています。

また、低燃費車の導入やエコドライブの確実な実施などにより、一般車両の燃料消費率向上にも取り組んでいます。2015年度は、目標(12.0km/ℓ以上)を上回る12.7km/ℓとなりました。

*電気自動車の廃車により、2014年度(累計導入台数169台)からは2台減少

WEB 委託輸送に係る省エネへの取組みについては九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > 委託輸送に係る省エネへの取組み

コピー用紙購入量・上水使用量の抑制

ペーパーレス化の推進や裏面利用、節水活動の徹底等により、「コピー用紙購入量」と「1人あたりの上水使用量」の抑制に取り組んでいます。

2015年度の「コピー用紙購入量」と「1人あたりの上水使用量」は、ともに目標(470トン以下、24m³/人以下)を達成できなかったことから、今後ともコピー用紙購入量・上水使用量の抑制に向けた取組みを徹底していきます。

5. 国際的な温暖化対策への貢献

当社及びグループ会社がこれまで国内外で蓄積してきた技術・ノウハウを活かし、アジアを中心にIPP事業*や海外コンサルティングを展開しています。また、国際協力機構(JICA)等の機関を通じた専門家の派遣・研修生の受け入れや、海外の電気事業者との情報交換も行っています。 ※:Independent Power Producer(独立系発電事業者)の略

IPP事業の展開を通じたCO₂排出抑制への寄与

ベトナム、フィリピンなどにおける天然ガスを利用した高効率の火力発電や、中国における風力発電など、アジア地域を中心にIPP事業を展開しており、国内のみならず、海外においてもCO₂排出抑制に寄与しています。

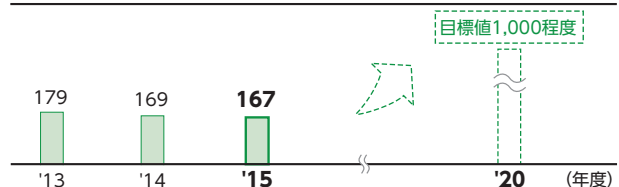
インドネシアのスマトラ島サルーラ地区では、当社が国内の地熱開発を通じて培った地熱発電技術を活かしつつ、伊藤忠商事(株)などと共に総出力32.08万kWの地熱発電所の建設を進めており、2016年度に初号機が運転を開始します(2017年に2号機、2018年に最終号機が順次運転開始予定)。



噴気試験の様子(サルーラ地区)

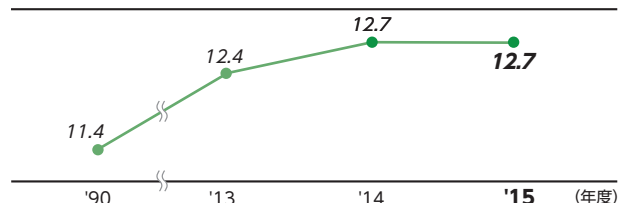
電気自動車導入台数(累計)

単位:台

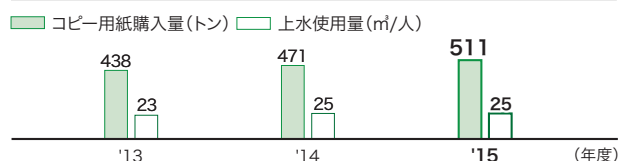


一般車両燃料消費率

単位:km/ℓ



コピー用紙購入量、上水使用量の推移



IPP事業によるCO₂排出抑制量

海外での高効率火力発電所や、風力発電所の運転(6か国、7プロジェクト*1:持分出力150万kW)による2013年のCO₂排出抑制への寄与は、約60万トン**2と試算されます。これは、当社の国内におけるCO₂排出量の約0.6%に相当します。

*1: IPP事業: 6プロジェクト・一般電気事業: 1プロジェクト。

*2: 当該国のCO₂排出係数は、「CO₂EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2015 EDITION (IEA)」に記載の値を用いて試算(掲載の最新データが2013年のため、2013年実績で算出)。

用語集をご覧ください

>>地球温暖化

>>電気自動車

>>プラグインハイブリッド車

>>低燃費車

>>エコドライブ

>>上水

>>IPP(独立系発電事業者)

>>国際協力機構(JICA)

電力自由化も踏まえ、コンサルティングなどをグローバルに展開してほしい。

▶ P21~22 国際的な温暖化対策への貢献

九電グループの技術・ノウハウを活かした海外コンサルティングの展開

国内外での電気事業で培った九電グループの技術・ノウハウを活かし、電力基本計画の策定や、発電・送変電・省エネ・環境などの海外コンサルティングに積極的に取り組み、各国の電力の安定供給や環境改善、人材育成に貢献しています。

2015年度は、インドの高効率石炭火力発電所の建設準備調査やウクライナのエネルギーセクターの基礎調査、さらには西アフリカ沖合いに位置するカーボヴェルデの再エネ導入の基礎調査を行いました。

>> 私の環境アクション

サルーラ地熱プロジェクトと希少植物

国際事業本部

サルーラ・プロジェクトグループ

なかむらりゅうた
中村 竜太



私は、インドネシア・スマトラ島北部に位置し、スマトラタイガーやオランウータン(現地語で“森の人”)が棲息すると言われる原生林近くの「サルーラ地区」において、2018年全号機の運転開始に向けて建設工事を進めている、世界最大級の地熱発電プロジェクトに従事しています。

私が現地に赴任した際、作業現場近くの林道で、以前図

鑑で見た希少植物の「ウツボカズラ」が群生しているのを目にしました。その時の感動は今でも忘れられません。

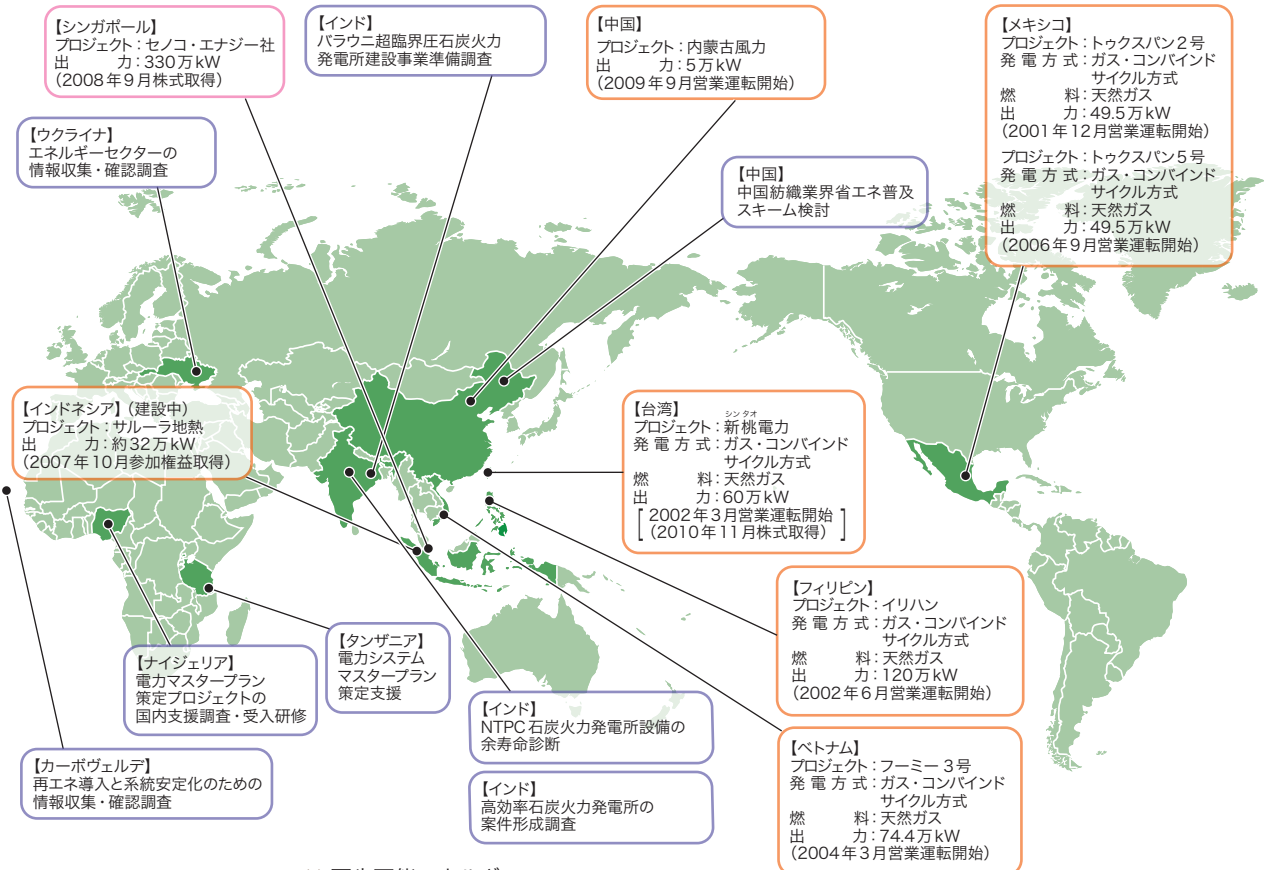
大規模な開発においても、小さな花の一輪まで思いやる気持ちを大事にしながら、現地スタッフとともにこのプロジェクトを成功させ、同国での再生可能エネルギーの利用促進に貢献したいと思います。



希少植物のウツボカズラ

海外での事業展開 (2015年度)

□ IPP 事業 □ 一般電気事業 □ コンサルティング事業



>> 再生可能エネルギー
>> コンバインド(サイクル)

用語集をご覧ください